





□□ \_\_\_\_\_ □□

1. ニュース …日本自費出版文化賞表彰式に160人  
即売会は来場者増の課題

□□ \_\_\_\_\_ □□

「2019日本自費出版フェスティバル」  
(第22回日本自費出版文化賞表彰式と第1回日本自費出版即売会)が  
12月15日(日)に開催されました。表彰式には約160人の来場があり、  
145の椅子が足りなくなる状況でした。  
主催のジャグラ沖専務理事も「昨年よりも表彰式らしくなっていていいね」  
と評価していただきました。  
一方「第1回自費出版即売会」は来場者が少なく、次回以降の課題と  
なりました。  
今回の課題については、すでに何人かの方から提案もあり、来月早めに  
首都圏運営委員会を開催することになりました。  
なお、表彰式の司会の(服部さん/マルワと宮川さん/ぶんしん出版)  
の新コンビも好評でした。

□□ \_\_\_\_\_ □□

2. ニュース …アドバイザー養成講座開催

□□ \_\_\_\_\_ □□

第33回自費出版アドバイザー養成講座が、日本自費出版フェスティバルの  
前日の12月14日(土)にニッケイビルにて開催されました。  
今回は小学館で商業出版と自費出版の両方の編集を経験した大山邦興氏の  
講演。氏は「商業出版と自費出版の大きな違いは、商業出版は著者も編集者  
も読者もプロだが、自費出版は著者も読者も素人で、編集者(アドバイザー)  
だけがプロ」と述べ、その役割の重さを伝えました。  
また、編集者の一番大切な仕事は目次を作ることだといい、  
本の構成の重要性も話されました。

□□ \_\_\_\_\_ □□

3. トピックス …中山千夏さんが伊豆新聞に大賞作品を紹介

□□ \_\_\_\_\_ □□

共同代表の中山千夏さんが、地元の伊豆新聞に「知ってほしいビキニ事件」  
と題したコラム(添付)を書いていただきました。  
第22回日本自費出版文化賞大賞作品の『NO NUKES—ビキニの海は忘れない—』  
(岡村啓佐著)の紹介です。

□□ \_\_\_\_\_ □□

4. お知らせ… アドバイザー認定試験を改善

□□ \_\_\_\_\_ □□

12月14日のセミナー開始前に、アドバイザー試験委員会（山崎領太郎委員長）が開催され、アドバイザー試験の領域や問題の改善を検討し、2020年から一部新しい問題で実施することが決まりました。

□□ \_\_\_\_\_ □□

5. お知らせ… 2020岐阜全国大会で本音座談会の予定

□□ \_\_\_\_\_ □□

日本自費出版全国大会「2020岐阜全国大会」の開催日と会場が決定しました。  
2020年5月16日（土）開催で、会場はホテルグランヴェール岐山です。  
すでにこんなセミナー案が出ています。  
「現役アドバイザーの本音喜怒哀楽座談会（仮題）」。  
年間多数の自費出版を担当している現役のアドバイザー3人に、  
商売の秘訣や喜怒哀楽を本音で話してもらう座談会です。自費出版事業を  
考えている経営者や、アドバイザーになろうとしている人は見逃がせない  
講座です。  
フライング申し込み歓迎。（宮川まで miyagawa@bun-shin.co.jp）

ホテルグランヴェール岐山  
〒500-8875 岐阜市柳ヶ瀬通6丁目14番地  
TEL：058-263-7111  
<https://grandvert.com/>  
総会会場1室・宴会場1室・シングル15部屋確保（早めのご予約を）

□□ \_\_\_\_\_ □□

6. 自費出版事情 … ～会員便り～ No.25

□□ \_\_\_\_\_ □□

株式会社 興栄社  
営業部 矢嶋 潤

「営業のころえ」

2019年も災害が多い年でした。温暖化によるものなのでしょうか、海面温度が高いおかげで台風は強い勢力を保ったまま日本列島に上陸するようになってきました。  
（おかげで11月の日本自費出版フェスティバルは12月に延期となってしまいました…）

災害にあった時にお互い「寄り添う」ことができれば、台風19号の時のように路上生活者を避難所から追い出すようなことはなくなると思います。

ところで、印刷という仕事は、お客様の脳内にある「こうしたい！」を組んで、刷って、加工して、形にすることだと考えています。  
長年対応してきて感じたのは、最初に接したお客様の多くが「ちゃんと形になるのか？」という不安を抱えているということです。  
そこにきちんと「寄り添う」ことができれば、いい仕事ができると思っています。

それは名刺一枚、封筒一枚でも変わらないと思っています。

偉そうなことを言ってしまいましたが、来年2020年はオリンピックイヤーです。世界が日本を見ています。様々な形で「寄り添い」を大事にしていきたいです。

□□ \_\_\_\_\_ □□

☆ 知つとこ 岐阜 ☆ その8

□□ \_\_\_\_\_ □□

知つとこ岐阜 その8

岐阜が舞台の小説

川端康成『篝火』『非常』『南方の火』その2

前回は、「これを読むと岐阜を訪れたい小説」として川端康成の『篝火』『非常』『南方の火』のあらすじを紹介いたしました。この3編の中には、加納天満宮や岐阜駅、名和昆虫博物館や鶺鴒など、岐阜の町並みや観光地がたくさん出てきます。瀬古写真館を訪れ、初めて一緒に写真を撮る場面があるのですが、川端と初代のなんとも初々しい姿が笑ましく描かれています。今でも残るその時の写真には、二人の結婚に胸を膨らませている川端と、まだあどけない表情の初代が写っています。

.....  
岐阜市の裁判所前の写真屋だった。  
『髪は？』と時雄（川端）が小声に言った。弓子（初代）はひょいと彼を見上げて頬を染めると、子供の素直な軽さばきでぱたぱたと化粧室へ走っていった。ちらちら薄黒い裏を見せながら古びた絨毯の上を渡っていく紅い鼻緒の上草履。そんなものまでが彼に弓子を感じさせた。弓子は化粧室の壁の鏡で髪を掻き上げた。その動いている脇だけが入口の冷たい壁からこぼれて見えた。それを見ただけでも時雄は夢のように幸福だった。微笑が温かくこみ上げて来た。

『南方の火』より

.....  
こんな幸せな時間を過ごした二人ですが、この恋は悲しい結末を迎えてしまいます。いま読み返すと何とも切なく感じます。これは余談ですが、長い年月の後、二人は同じ日、同じ寺に納骨されました。単なる偶然かもしれませんが、最後まで不思議な縁で結ばれていたと思わずにはいられません。

株式会社 岐阜文芸社 飯尾みゆき

\*\*\*\*\*  
★あとがき

新年早々、いいお話です！

ジャグラの機関誌『グラフィックサービス』1月号に、新春座談会として

「楽しく仕事ができ、著者から感謝される それが自費出版ビジネスだ！」  
が特集記事として掲載されます。  
ジャグラー会長と、自費出版ネットワークからは、岩根さん、山崎良幸さん、  
川井さんが登場しています。

また、プリテックステージ1月号でも出版関連の特集が生まれ、自費出版分野では  
「変わりゆく自費出版市場」と題した記事が掲載され、川井さんのコメントも載ります。

お楽しみに！

そして、私のあとがきに代わりまして、先月行われた日本自費出版文化賞表彰式  
のお手伝いをさせていただいた、弊社服部のスタッフブログより引用いたします。

.....

12月15日に第22回となる表彰式が行われ、不肖わたくし、  
お手伝いさせていただいたのです。  
表彰式では受賞者のスピーチがあり、受賞作への想い、どうして  
執筆するに至ったか……とても興味深い内容でした。  
稀にスピーチの制限時間を越えてなお、話しが続く方もいらっしゃって、  
そのガッツには感服しましたが、あふれる想いの結晶だから仕方ないですね。  
ご夫婦でいらっしゃって記念撮影してらしたり、おじいちゃんの応援？に  
おめかしした小さい子が来ていたり。喜びとワクワク感、  
そして感動が詰まった式でした。

.....

最後までお読みいただき、ありがとうございました。  
本年もどうぞよろしく願いいたします。

---

お気づきの点、掲載情報、はたまた私への激励のお言葉がございましたら  
yumi@maruwanet.co.jp まで、お願いいたします。